

ケアのある
風景



医療法人悠明会

介護老人保健施設 ウエルケア悠

介護予防から看取りまで
地域に根差したサービスで
「その人らしい生活」を支える

奈良県大和郡山市を中心に、地域住民の健やかな生活を支える
医療・介護・IT関連事業を展開しているウエルグループ。
同グループの介護部門の中核を担い、
入所者の在宅復帰に尽力する

介護老人保健施設「ウエルケア悠」を紹介する。

撮影／木村哲也



1階に併設されたデイケアでは、
利用者が元気でフレイル予防の体操に励む



老健フロアでは、
1階のデイケアから配信される「オンライン・リハ」を実施

リハビリテーションに 重きを置いたケアで 入所者のADL改善と 在宅復帰を支援

奈良県の北部に位置し、太古の時代を物語る文化遺産と豊かな自然に育まれた大和郡山市。県庁所在地の奈良市にも近く、JRや近鉄電車、西名阪自動車道といった県の内外へ移動する際の交通手段も整った利便性の高い地域だ。

同市を中心に医療・介護・ヘルスケア事業、海外・教育・人材事業、ITソリューション・コンサルティングに携わっているウエルグループは、医療法人、社会福祉法人、NPO法人、株式会社など全18法人で

構成。グループ内の法人がそれぞれの強みを活かしながら連携を図り、長年にわたって小児から高齢者、障がい者、外国人が地域で共生できるまちづくりの一翼を担い続けている。

同グループの柱である医療・介護・ヘルスケア事業は、医療法人悠明会を中核に診療所、介護施設、障がい者支援施設、保育施設などを運営。25年の実績を有す介護部門においては、介護老人保健施設（以下、老健）や特別養護老人ホーム（以下、特養）、有料老人ホームなどの入所施設から、居宅介護支援事業所、訪問介護、デイケアなどの各種在宅サービスまで、約40の介護事業所を展開、住み慣れた地域でいつまでも暮らしたいと願う高齢者に寄り添いながら、ハートフルなケアを実践している。



ベトナム人スタッフのアインさん(左)が、利用者をハイタッチで応援



スタッフ見守りのもと、顔認識できる最新のトレーニングマシンでリハビリに励む



セラピストの指導によって、体幹が鍛えられて姿勢も改善された



タブレットを用いて認知症の予防・改善のための脳トレに挑戦

これらの介護部門のなかでも、特徴的な取り組みを行っているのが、2012年に開設された老健「ウェルケア悠」(定員160人)だ。同施設は奈良県内の老健のなかでも最大規模の定員数を誇る。また、「在宅復帰超強化型老健」として自立支援に重きを置いたケアには定評がある。

地上3階建ての建物の1階にはデイケア(定員80人)が併設されており、2、3階が老健フロアという設えだ。副施設長の中井由加里さんの案内で館内に入ると、エントランスの奥のデイケアのスペースでは、セラピストの指導のもと体操が行われていた。セラピストの呼びかけに合わせて、利用者たちは元気づく身体を動かしている。

老健フロアが上がってみると、1階のデイケアにいたセラピストが大型モニターに映し出され、入所者たちがモニターの前で体操する「オンライン・リハ」が行われていた。これは同施設内だけでなく、セラピストが配置されていないグループ内の他施設にもリアルタイムで配信されている。

中井さんは「当グループでは、自立支援は老健以外の施設にも必要であると考えています。各施設の利用者様の満足度の向上はもちろん、既存の職員の働き方改革や人件費の適正化にも有効です」と話す。このようにリハビリの充足を図る同施設には、最新のトレーニングマシンも多数完備。最新のマシンを利用することで、入所者およびデイケア利用者のモチベーションも自然に高まる。また、自宅での生活を想定した「在宅復帰コーナー」も設けられ、高齢者の自立支援を多方面からアプローチしている。



7月にオープンした「ヘルス・スタジオ」の利用者は、健康寿命延伸への意識が高い



ADLの改善に向け、セラピストの施術にも積極的に臨む



「ヘルス・スタジオ」のスタッフは、最新の画像分析を用いて利用者の歩行の状態もチェック



おやつの中ではスタッフとの対話で笑顔がこぼれる



ウェルグループ医療介護事業部のスタッフの皆さん



「ウェルケア悠」の運営を支える副施設長の中井由加里さん(中央)と相談員の福井規光さん(左)、向井由香里さん

医療法人悠明会 介護老人保健施設 ウエルケア悠

●奈良県大和郡山市田中町728
☎0743・55・0210
📧welgroup-service.jp

奈良県大和郡山市に2012年に開設された定員160人の介護老人保健施設。デイケア(定員80人)も併設され、県内の老健のなかでも最大規模を誇る。「在宅復帰強化型老健」として自立支援に重きを置いたケアを実施。ベトナムやインドから来日した外国人スタッフが多数活躍している。



医療法人悠明会理事長の井村龍磨さん

グループ内の 事業所が連携し 健康寿命延伸から 医療的ケアまで トータルに担う

同施設の運営母体で、グループの医療部門を担う医療法人悠明会は、大和郡山市および奈良市に3診療所を有す。同施設内には19床の有床診療所「在宅支援いむらクリニック」が併設されており、入所者の急変時にも迅速に対応できるバックアップ体制が整っている。

同法人の理事長で在宅医の井村龍磨さんは「医療・介護のシームレス・ケアだけでなく、健康寿命延伸にも目を向け、グループ内で予防・治療・療養・看取りまでをトータルに担える体制の強化を急務としています」と話す。

その言葉どおり、同施設が立地する広大な敷地には、内科・皮膚科・物忘れ外来などを標榜する「郡山いむらクリニック」や住宅型有料老人ホーム、障がい者施設といったグループの関連施設が立ち並ぶ。

これらの関連施設のなかでも特筆すべきは、要支援や要介護1〜2程度の高齢者を対象とした「ヘルス・スタジオ」だ。ここはいわゆる「シニア向けフィットネスクラブ」で、地域の高齢者の介護予防のための施設として今年7月にオープンした。施設内には、老健と同様に最新のトレーニングマシンが導入されており、健康寿命延伸に向けて熱心にト

レーニングに励む利用者たちの姿があった。

また、2022年には訪問看護事業所が併設された「在宅医療センター悠」を開設。医療・介護に携わる多職種が在籍し、在宅患者をチームで支える体制も整っている。老健の入所者は、在宅復帰後も安心ある暮らしを送ることができそうだ。

こうした質の高いサービス提供において、優秀な介護人材の育成は不可欠だ。同グループは外国人介



老健の館内には、充実の「リハビリスペース」や一般家庭を模した「在宅復帰コーナー」が設けられている

護人材も積極的に受け入れており、現在はベトナムやインドから来日した120人の外国人スタッフが在籍。なかには介護福祉士の国家資格取得者もいるという。今年の秋にはベトナムに外国人スタッフを派遣し、日本式介護を普及させる新事業もスタートする。井村理事長は「こうした事業を通じて若い世代の人たちにも介護の仕事の魅力を伝えていきたいと考えています」と、意欲を見せた。